

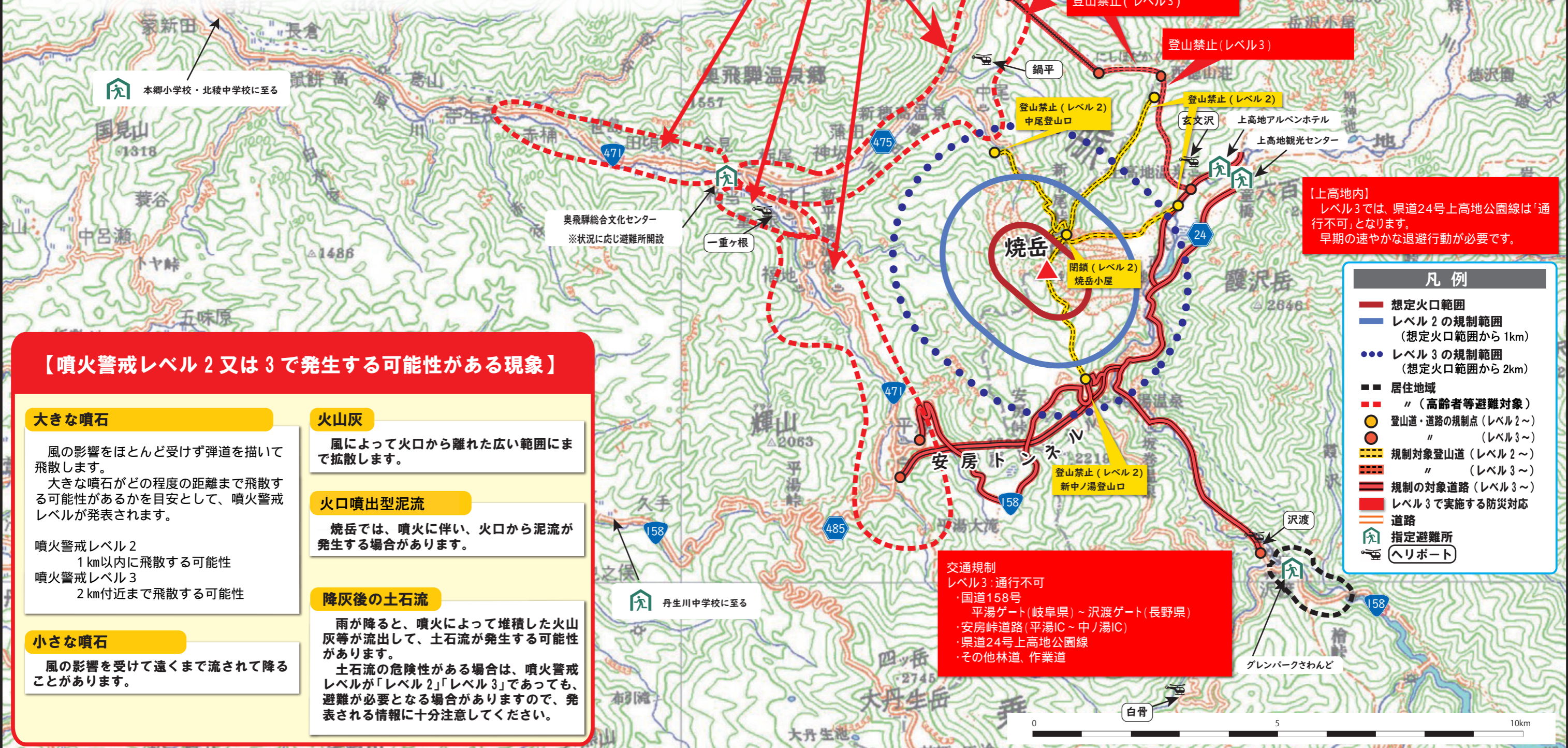
焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル 2・3 の場合

この地図は、焼岳が噴火し、気象庁から「噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）」又は「噴火警戒レベル 3（入山規制）」が発表された場合に、国・県・市などの防災関係機関が「焼岳火山防災避難計画」に基づいて実施する防災対策を表したものです。

ただし、噴石や降灰の飛散状況によっては、警戒レベル 3 で実施するとされている防災対策の実施時期が早まる可能性もありますので、噴火時には、発表される情報に十分注意してください。

【北アルプス方面への入山】
 < 岐阜県側 >
 レベル3発表の場合、新穂高入山口（全方面）・笠ヶ岳入山口からの入山について、噴火の状況を見ながら全面的に規制を行う可能性があります。
 < 長野県側 >
 レベル3発表の場合、道路規制が開始され上高地内からの入山はできません。
 【北アルプス方面からの下山】
 レベル3発表の場合、麓では噴火の状況により全面規制が行われるため、特に登山者は別ルートでの下山の検討が必要となります。



高齢者等避難発令（レベル3）
 （新穂高、中尾、神坂、栃尾、平湯、福地、一重ヶ根、村上、柏当、今見、田頃家、蓼之俣、笹嶋）

新穂高ロープウェイ
 レベル3
 退避のみ運行可

登山禁止（レベル3）

登山禁止（レベル3）

登山禁止（レベル2）
 中尾登山口

登山禁止（レベル2）
 玄文沢

上高地アルペンホテル
 上高地観光センター

【上高地内】
 レベル3では、県道24号上高地公園線は「通行不可」となります。
 早期の速やかな退避行動が必要です。

奥飛騨総合文化センター
 ※状況に応じ避難所開設

一重ヶ根

焼岳
 閉鎖（レベル2）
 焼岳小屋

登山禁止（レベル2）
 新中ノ湯登山口

交通規制
 レベル3：通行不可
 ・国道158号
 平湯ゲート（岐阜県）～沢渡ゲート（長野県）
 ・安房峠道路（平湯IC～中ノ湯IC）
 ・県道24号上高地公園線
 ・その他林道、作業道

丹生川中学校に至る

グレンパークさわんど

白骨



【噴火警戒レベル 2 又は 3 で発生する可能性がある現象】

大きな噴石

風の影響をほとんど受けず弾道を描いて飛散します。
 大きな噴石がどの程度の距離まで飛散する可能性があるかを目安として、噴火警戒レベルが発表されます。

噴火警戒レベル 2
 1 km以内に飛散する可能性
 噴火警戒レベル 3
 2 km付近まで飛散する可能性

小さな噴石

風の影響を受けて遠くまで流されて降ることがあります。

火山灰

風によって火口から離れた広い範囲にまで拡散します。

火口噴出型泥流

焼岳では、噴火に伴い、火口から泥流が発生する場合があります。

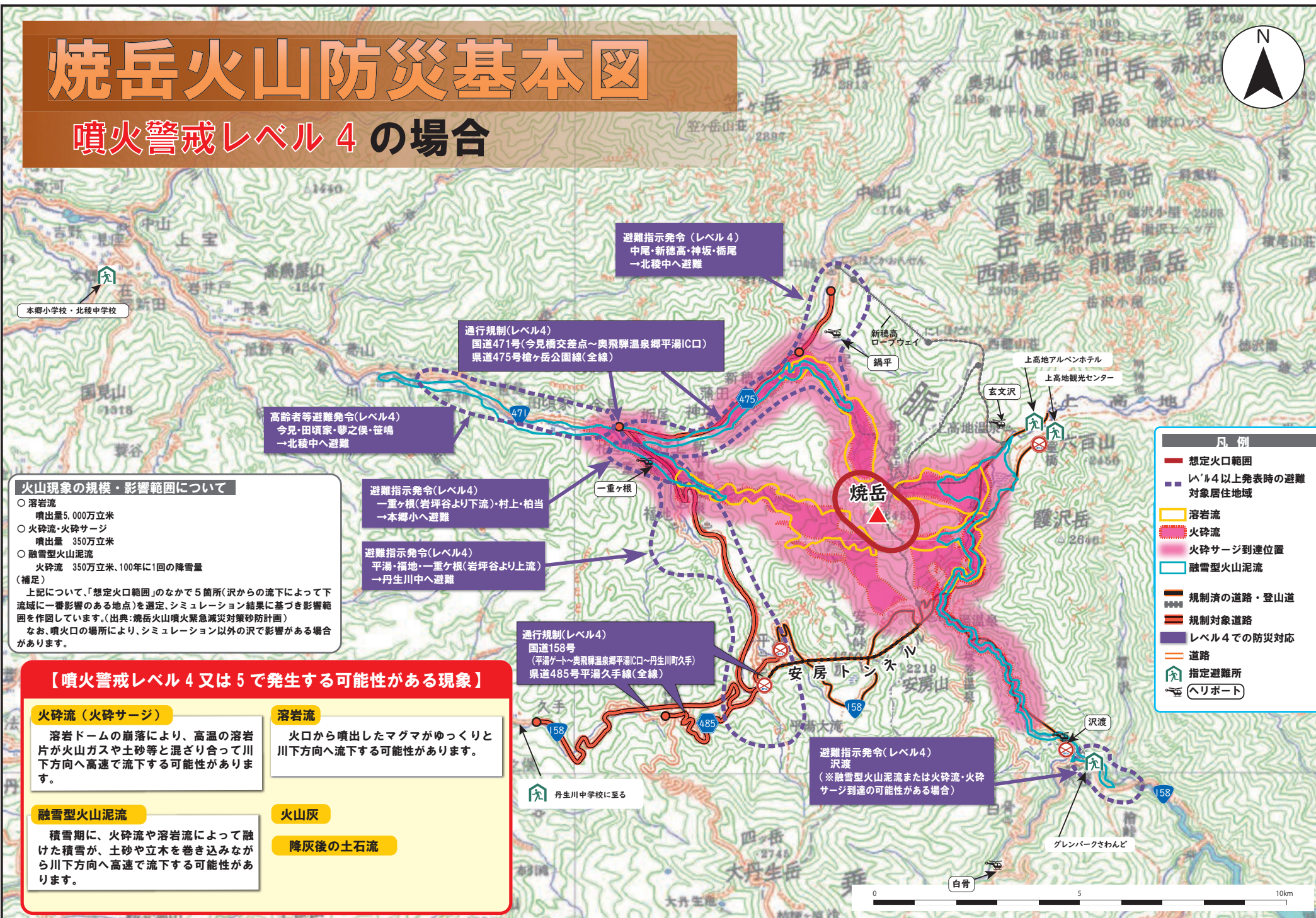
降灰後の土石流

雨が降ると、噴火によって堆積した火山灰等が流出して、土石流が発生する可能性があります。
 土石流の危険性がある場合は、噴火警戒レベルが「レベル2」「レベル3」であっても、避難が必要となる場合がありますので、発表される情報に十分注意してください。

凡例	
	想定火口範囲
	レベル2の規制範囲 （想定火口範囲から1km）
	レベル3の規制範囲 （想定火口範囲から2km）
	居住地域
	（高齢者等避難対象）
	登山道・道路の規制点（レベル2～）
	（レベル3～）
	規制対象登山道（レベル2～）
	（レベル3～）
	規制の対象道路（レベル3～）
	レベル3で実施する防災対応
	道路
	指定避難所
	ヘリポート

焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル 4 の場合



火山現象の規模・影響範囲について

- 溶岩流
噴出量 5,000万立米
- 火砕流・火砕サージ
噴出量 350万立米
- 融雪型火山泥流
火砕流 350万立米、100年に1回の降雪量(補足)

上記について、「想定火口範囲」のなかで5箇所(沢からの流下によって下流域に一番影響のある地点)を選定、シミュレーション結果に基づき影響範囲を作図しています。(出典:焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画)
なお、噴火口の場所により、シミュレーション以外の沢で影響がある場合があります。

【噴火警戒レベル 4 又は 5 で発生する可能性がある現象】

火砕流 (火砕サージ)

溶岩ドームの崩落により、高温の溶岩片が火山ガスや土砂等と混ざり合って川下方向へ高速で流下する可能性があります。

溶岩流

火口から噴出したマグマがゆっくりと川下方向へ流下する可能性があります。

融雪型火山泥流

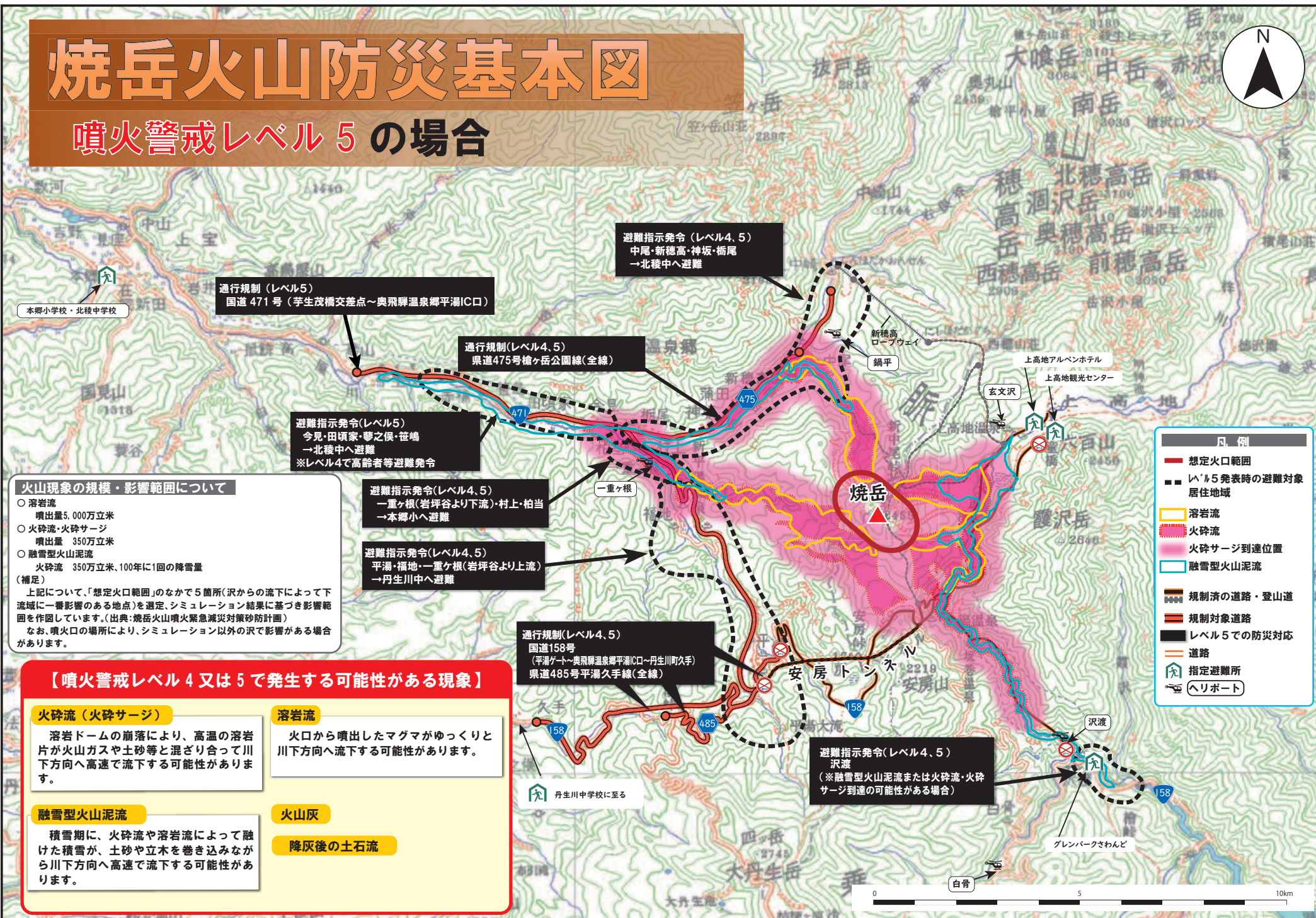
積雪期に、火砕流や溶岩流によって融けた積雪が、土砂や立木を巻き込みながら川下方向へ高速で流下する可能性があります。

火山灰

降灰後の土石流

焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル 5 の場合



火山現象の規模・影響範囲について

- 溶岩流
噴出量 5,000万立米
- 火砕流・火砕サージ
噴出量 350万立米
- 融雪型火山泥流
火砕流 350万立米、100年に1回の降雪量(補足)
上記について、「想定火口範囲」のなかで5箇所(沢からの流下によって下流域に一番影響のある地点)を選定、シミュレーション結果に基づき影響範囲を作図しています。(出典:焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画)
なお、噴火口の場所により、シミュレーション以外の沢で影響がある場合があります。

【噴火警戒レベル 4 又は 5 で発生する可能性がある現象】

火砕流 (火砕サージ)

溶岩ドームの崩落により、高温の溶岩片が火山ガスや土砂等と混ざり合って川下方向へ高速で流下する可能性があります。

溶岩流

火口から噴出したマグマがゆっくりと川下方向へ流下する可能性があります。

融雪型火山泥流

積雪期に、火砕流や溶岩流によって融けた積雪が、土砂や立木を巻き込みながら川下方向へ高速で流下する可能性があります。

火山灰

降灰後の土石流

凡例	
—	想定火口範囲
 	レベル5発表時の避難対象居住地域
 	溶岩流
 	火砕流
 	火砕サージ到達位置
 	融雪型火山泥流
	規制済の道路・登山道
	規制対象道路
	レベル5での防災対応
	道路
 	指定避難所
 	ヘリポート

この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 200000 (地図画像) を複製したものである。(承認番号 平成 26 情復、第 274 号)